

提言 (ストップ・ザ・ヒートアイランド=名古屋方式の提案)

1. 大都市名古屋における 緑地や水辺の重要性

- 東部丘陵の大規模緑地をはじめ**既存樹林地を減少させない**。また、**緑の復元・創出**を進める。
- 樹林地が持つ気温調節や水源涵養などの諸機能が十分発揮されるように、**森の管理**を進める。
- 海・河川・ため池・湧水・湿地などの**水辺環境を減少させない**。またこれらを維持・保全し、**樹林地**など**とつないでいく**。

2. 暑熱化する街に風の道をつくり、 涼風・海風を都市に導く

- 海浜・河川・水路、拠点の緑・連続する緑等、クールスポットのポテンシャルを活用した**「風の道づくり」**を、すべての都市計画、街づくり、建築計画において進め、暑熱化する都市に冷風を呼び込む。

3. 安心・安全な街づくりとしての熱中症対策

- **熱中症**（年間1,000人規模の被災者）を都市の**気象災害**として位置づけ、安心・安全な都市生活を保障する**ハード・ソフト両面の施策**を展開していく。

【ハード整備】

- 都市内に分布する社寺林や宅地の緑、公園や街路樹、建築壁面や屋上における**緑のボリュームアップ**を推進する。
- 緑化地域制度の拡充により、**宅地の緑の充実と雨庭**（雨水貯留・浸透の庭）の普及を図り、緑と潤いのある市街地の形成を進める。
- 透水性舗装の一般化を図るとともに、**保水性舗装**の積極的導入を進める。
- 多様な主体による**雨水ストック**を推進し、壁面・路面・植栽地への供給により、都市の湿潤化を進める。
- 都市内における緑陰率の増加を図るため、街路樹による交差点の日陰づくりなど、**緑陰効果の高い緑づくり**を進める。

【ソフト対応】

- 現状を熱中症非常事態ととらえ、公共施設やデパート、オフィスビル等の1階やコンビニエンスストアなどの協力を得ながら、**熱中症シェルター**としての利用促進を図る。
- 初夏の時期から健全な汗かき型ライフスタイルを推奨し、都市の**暑い夏に適応した体づくり**を普及啓発する。
- 私たちをはじめ、すべての生き物の生存条件である「気温」について、**市民の関心と理解を深めるため**「気温測定」などの**行動**を継続していく。

4. 省エネルギー化の推進による 都市の暑熱化抑制

- アスファルト路面等の**蓄熱源**に着目し、具体的な抑制策を求めていく。
- 省エネルギー、省廃熱を意識した**製品、建材、建築計画の選択と普及**を進める。